

## 令和2年度 学校評価報告

草加市立谷塚中学校

(令和3年1月29日作成)

<b>1 学校教育目標</b>	
○学び合う生徒（知） ○思いやる生徒（徳） ○高め合う生徒（体） 校訓「文武両道」	
<b>2 重点目標・努力目標</b>	<b>3 前年度の成果と課題</b>
1 信頼される学校 2 確かな学力の育成 3 豊かな心の育成 4 健やかな体の育成 5 教育課程の改善	成果 ○授業では、「話し合い活動マニュアル」を策定し、授業で生かすことができた。また、授業規律に重点を置き、どのクラスも規律ある授業ができ、基本的な生活習慣の定着に、つながった。 ○学校行事、生徒会活動などは、生徒内で実行委員を形成し、生徒を中心とした活動をより強化され、学校行事もより意欲的に取り組む生徒が増えた。 課題 ●校務分掌の偏りが見られた。個々の教員の負担を軽減しつつ、効率的な教育活動の充実を図る。 ●生徒一人ひとりの学習意欲に課題がみられた。一時間の授業を大切にし、生徒の意欲を喚起させる指導法や評価方法の工夫を行う。

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営目標、方針</li> <li>校務分掌組織</li> <li>適所への適材配置</li> <li>職員会議等の運営</li> <li>予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	A	<p>○休校や計画等も変更が多い中、その都度確認をして、コロナ対策をしながら教育の工夫が行えた。</p> <p>○昨年と比べ、一人の先生に集中しないように、分散させながら主任を配置させた。</p> <p>●主任等の配置を分散させたが、仕事の偏りが以前としてあるのが現状である。特に引き継ぎや、学年間での情報の共有をより確実に行う。</p> <p>●学校、学年、学級目標の達成の為に、コロナ禍ではあるが、できることを検討し教育活動を充実させていく。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織、計画、実施</li> <li>校内研修の推進</li> <li>授業改善への取組</li> <li>校外研修会への参加</li> <li>人材育成</li> </ul>	B	<p>○教育週間など、教員同士が授業を見合う、近隣の小学校の指導訪問を参観するなど、授業改善にむけた取り組みができた。</p> <p>○授業改善に向けて、話し合い活動を多く取り入れ、生徒の主体的な学び合いにつなげることができた。</p> <p>●幼保小中を一貫した教育について、コロナ禍で交流活動等、取り組みが不十分である。学校での取り組みを小学校に発信していく。</p>

③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健計画、安全計画</li> <li>・環境衛生の管理</li> <li>・健康観察、安全点検</li> <li>・緊急事態発生時の対応</li> <li>・危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	A	<p>○コロナ対策として、消毒液などが拡充されて、掲示物等での注意喚起が行えた。</p> <p>○避難訓練、登校指導は継続的に取り組むことができた。</p> <p>●危機管理マニュアルについて、全職員への理解と徹底が不十分であった。感染症対策も含め、再度確認をして、全職員の理解を徹底していく。</p>
④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の管理、保護</li> <li>・施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	A	<p>○個人情報において校内規定のもと、管理徹底が図れた。個人情報持ち出し簿の内容を詳細にするなど、情報管理の意識が高まった。</p> <p>○月ごとの安全点検をでは、危険、修繕箇所だけでなく、不審物の項目を増やし、問題がすぐに対応することができた。</p> <p>●施設の老朽化が依然としてある。市教委と連携しながら、計画的な修繕を進めていく</p>
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報の発信</li> <li>・学校公開の実施</li> <li>・学校運営協議会の推進</li> <li>・地域、校種間連携</li> <li>・PTA活動の活性化</li> </ul>	B	<p>○学校HPの定期的な更新や学校便りなど各種便りやメール配信を通じて情報を発信した。また、日程の急な変更についても、速やかに情報をメールや通知文で連絡をすることができた。</p> <p>●コロナ禍により、学校公開や学校運営協議会など保護者・地域との交流が中止となってしまった。今後、できる内容を検討し、実施をしていく。</p>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す子ども像の共有</li> <li>・15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>・一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	B	<p>○小学校の教科書を全教科、購入し、年間指導計画や学力向上プランの見直しを行った。</p> <p>○コロナ禍ではあるが、小学校でのあいさつ運動や指導訪問において学校区での相互の授業を見合うことができた。</p> <p>●幼保の連携、小学校との取り組みをより充実させていく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1.5年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍で教育計画を見直し、各教科及び領域の授業時数の確保を図ることができた。</li> <li>○休校等もあり、年間指導計画を見直し、ほぼ予定通りに指導をすることができた。</li> <li>●行事の精選を含め、教育活動の充実と授業時数の確保を一層推進していく。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間指導計画を見直し、感染症対策に十分注意を払いながら指導をすることができた。</li> <li>○授業展開ではわかりやすく学び合える工夫をすることができた。</li> <li>●評価・評定の仕方に課題が見られた。新学習指導要領の全面実施に伴い、今後、研修等で評価の仕方を改めて理解していく。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの先生方が授業の展開を工夫して、生徒の考えをゆさぶる授業ができた。</li> <li>○学年全体で準備をして、指導の仕方を情報共有することができた。</li> <li>●新学習指導要領を実施に伴い、評価の仕方や指導法の改善をより推進していく。</li> </ul>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>生徒会活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍で活動は限られた中でも、生徒が主体となって、学校行事や生徒会活動を進めることができた。</li> <li>●学級経営は学校生活の基盤であるため、学級指導や活動をより充実させていく。</li> </ul>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の実態に合わせた指導計画に基づいて自ら考え、興味・関心に応じたテーマを選択し、活動を実践することができた。</li> <li>○学ぼうふるさと草加を活用し、発表方法を多様にして、学習に取り組めた。</li> <li>●生徒一人一人がより探求的に学習できる取り組みを考えていく。</li> </ul>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、生徒理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導には組織的に対応し、いじめ等の課題解決につながった。</li> <li>○いじめ防止対策委員会ではSSWの助言もあり、未然防止につながった。</li> <li>●生徒指導や教育相談について、一層の共通理解を図り、学級経営を基盤として指導の充実させていく。</li> </ul>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的なキャリア教育</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>進路情報の収集・活用</li> <li>職場体験活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路指導部を中心として、特色のある進路指導を実践することができた。</li> <li>●進路指導計画を見直し、生徒一人一人の進路についての意識を高めていく指導をする。</li> </ul>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒、個々の実態把握をして、教育活動全般を通して、個に応じた指導をすることができた。</li> <li>●各学級で配慮を要する生徒が在籍するため、校内の体制を確立するだけでなく、諸機関と連携をしていく。</li> </ul>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校図書館教育の指導計画のもと、司書教諭及び学校司書を中心に朝の読書活動が充実していた。</li> <li>○学校図書が充実しており、掲示等の工夫がなされ、季節を感じるものも増え、図書館利用の生徒が増えた。</li> </ul>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器を積極的に活用し、生徒の学習の理解につなげることができた。</li> <li>●生徒一人一台のタブレットPCが導入させたため、今後も授業等での有効的な活用について研修を行い、研究を進めていく。</li> </ul>

①人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○人権について研修を行い、日々の教育活動で人権感覚を養うことにつながった。</p> <p>●人権について、テーマを取り上げクラスや学年全体で考える機会を今後は増やしていく。</p>
-------	--	---	---

(様式2・中学校用③)

草加市立谷塚中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	○学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の確立</li> <li>・家庭学習の定着</li> <li>・指導法の工夫改善</li> </ul>	B	<p>○県学力学習状況調査の結果を分析し、各教科で課題を共有し、学校全体で研修を行い、授業実践を行った。</p> <p>○小学校の教科書を全教科購入し、各教科の重点目標を決め、学力向上プランを見直し、指導の改善を行った。</p> <p>●家庭学習の項目では、生徒・保護者ともに課題が見られた。家庭学習の必要性を指導するだけでなく、学習の意欲を起す指導を研究していく。</p>
	○学校間連携教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区内小学校、草加南とも連携、協力</li> <li>・近隣の地域の幼保との交流</li> </ul>	B	<p>○コロナ禍で中止となった行事も多いが、近隣小学校（谷塚小、氷川小）とのあいさつ運動や授業参観等について行うことができた。また、中学校の定期テストの期間では小学校が家庭学習を重点週間にするなど統一した取り組みができた。</p> <p>●学校間連携の内容や諸調査からの課題を共有し、幼保小中を一貫した教育での研究を生かした実践を深めていく。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

学習指導では、令和3年度新学習指導要領の全面実施にむけて、学校研究テーマ、「主体的・対話的で深い学びについての授業づくり、生徒一人一人の自己肯定感、有用感の育成」として学校全体で研究に取り組んだ。今年度、小学校の教科書を全教科購入して、教科会で研究をして、年間指導計画や学力向上プランを見直した。また、県学力学習状況調査の結果を分析し、課題を見つけ、研修をして、授業実践に取り組んだ。学び合い・発表活動の充実、生徒の学習意欲の向上につながった。

学校行事では、コロナ禍により、多くの行事で開催時期の変更、規模の縮小、中止があった。それでも、生徒が主体的に活動に取り組み、学校行事を感染症予防に注意を払いながら、意欲的に取り組むことができた。スポーツ祭では、生徒の団結が見られ今後の活動の意欲向上にもつながった。

学習面で、家庭学習に関する項目で昨年と比べ、肯定的な回答の割合が低下してしまった。家庭学習の習慣化が学習内容の定着につながるため、生徒一人一人の学習意欲の向上に努めていく。そのため、日々の授業改善や学習を促す工夫など、研究を深めていく。

学校行事等での成果が見られたので、今後はできる内容を検討して、授業時数を確保しながら、生徒により効果的で、達成感があり、感染症対策にも十分、注意を払った活動を考えていく。

6 次年度の改善策

・学習指導では、生徒一人一人の学習意欲の向上のために、授業改善を進めていく。言語活動を活発に取り組み、主体的に学ぶことができる指導の工夫改善を図る。その中で、知識・理解や思考力・判断力・表現力を高めていく。1時間の授業では、まとめと振り返りの時間を設け、学習が継続して取り組めるように工夫をする。さらに、教員の指導力の向上のため、学校内や近隣の小学校との相互の授業参観する場を設け、教材や情報の共有を図り、一貫教育の視点から、効果的・効率的な指導へ改善をしていく。

・校務分掌の偏りを見直し、個々の負担を軽減すると共に、教科・学年を超えた、教員同士のつながりを充実させ、チームとして各分掌・各教科を担えるよう働きかける。また、学校行事の精選を図り、感染症対策を講じながら、より効果的な教育活動にできるように検討をしていく。

・校舎等の老朽化の中、関連組織と連絡を取りつつ、学校全体で教育環境整備や校内美化活動を推進して、整備及び改善を図っていく。